

村高マスコットキャラクター

COME & MEET Vol.2

～小代（おじろ）の若者編～



村岡高校ホームページ

- 【発行日】 2021（令和3）年3月22日 初版
【発行】 兵庫県立村岡高等学校
〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡 2931
☎0796-94-0201
- 【監修】 鳥取大学地域学部
【協力】 小代区のみなさん
香美町地域おこし協力隊 房安晋也
- 【デザイン・印刷】 スタジオK1
【スタッフ】 兵庫県立村岡高等学校
村高発地域元気化プロジェクト集落調査班
上田遥菜・西井悠人・坂本実優・藤本聖也
地域アウトドアスポーツ類型地域創造系1～3年生

ISBN 978-4-9907829-8-6

ステキな“人”と出会うための 香美町ガイドブック Vol.2

～小代（おじろ）の若者編～

かみ桜あう COME & MEET



発行 兵庫県立村岡高等学校
監修 鳥取大学地域学部

香美でステキな“人”に出会い
ステキな“ひととき”を過ごす
ステキな“空間”をお届けします

もくじ

小代マップ.....2

小代区の若者魅力紹介3

田尻 茜3

西村 太一・長瀬 優也5

小林 一樹7

一ノ本智毅9

今井 寿樹11

井上 直樹13

稲尾 孝15

吉田 徹17

邊見 裕作19

松田 晃宏21

小林平・理恵23

桑原 真琴25

上山知沙子・恭平27

谷野 博29

松田 拓也31

井上 舞33

小代の食35

小代の滝36

みかた残酷マラソン37

おわりに38

コロナ禍で多くの制約を受ける中で行ったインタビュー調査でしたが、とてもステキな時間を過ごせました。このガイドブックには、小代の若者の魅力が詰まっています。ぜひお楽しみください。

小代区の魅力若者マップ





Tajiri Akane
田尻 茜



「つながり」の創出空間 スミノヤゲストハウス

活動紹介

貴田地区の入り口から急な上り坂を進むと昔懐かしさと温かさを感じる大きな家がある。玄関の扉を開くとオーナーの田尻茜さんが笑顔で迎えてくれる。ここはスミノヤゲストハウス。スミノヤではゲスト（来訪者）と地域住民とのコミュニティづくりをめざしており、月に2～3回程度、近所のおばあちゃんが先生となって教えるしめ縄づくり体験や、地元内外の方が協同して田植えと稲刈りをするワークショップ等のイベントを開催している。訪れる人は、リピーターが多く20～40代の人が多い。イベント目的で訪れる人や鳥取県に観光へ行く途中の経由地として利用する人、田舎暮らしをしてみたいという人たちが数多く訪れていて、近年では海外の人も訪れている。

小代という小さな村に、「つながり」を広げていく場を創り出している空間だ。



なぜ小代で活動をするのか？ 小代の魅力とは？

小代の一番の魅力といえば、「人の温かさ」だ。その魅力こそが現在の活動をする原動力になっている。その魅力に初めて触れたのは大学3年生の時だ。「年に4回小代を訪れたら単位をもらえる」というゼミがきっかけだった。初め

は単位目当てに参加したが、足を運んでからは道で会う人たちのあたたかさに魅力を感じた。どこから来たのかもわからないような自分を、「ようきんさったなあ〜」とアットホームな雰囲気

で迎えて受け入れてくれることがなにより嬉しかった。小代に住もうと思ったのは、大学4年生の時に国際ワークキャンプのリーダーをした時のことだ。2週間小代に滞在することで地域の人とかかわりができて知り合いができた。それで暮らしのイメージがついた。それから、就職して小代を離れた後、住みたいという気持ちを捨てきれず移住することを決意した。移住する際には、地域の人が、住む家や仕事を紹介してくれるなど多くの場面で手を差し伸べてくれた。地域の人なしでは移住は難しかっただろう。

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

小代という場所が好きだ。暮らしている人が好きだ。だからこの魅力をもっと多くの人に知ってほしい。スミノヤで行っているワークショップできっかけを作りたい。ワークショップを通して、ゲストと地域住民が知り合い、ゲストにまた来たいと思ってもらいたい。今考えている計画は地域の人が主役になるワークショップを開催したい。それが小代を出ていった人が戻ってきたいと思ってもらえるきっかけになるのではないと思う。

この魅力ある小代という村に多くの人に恋をしてもらって、多くの人に訪れてもらいたい。



~Small is wonderful~



活動紹介

著しく情報化が進み、様々な形で情報が世に送受信されている昨今。その一翼を担う媒体として「YouTube」に注目し、自分達ならではの形で小代の魅力を発信できるのではないかと考えた二人の男。その男達こそ、西村太一・長瀬優也の両名だ。

皆さんは「ド田舎暮らしオジロちゃんねる」をご存じだろうか。「ド田舎暮らしオジロちゃんねる」は小代の若者で構成され「川遊び」「キャンプ」「地域のイベントへの参加」などを通し、小代の「子」(小代の中高校生など)に小代の人が紡いできた人と人との「繋がりがり」という魅力を発信しているウェブチャンネルである。



Nishimura

Taichi

西村 太一

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

活動をしているうちに小代の子どもたち(中高生)から動画の話をされる機会が増え、その子たちがいつか田舎に帰ろうかな、と考えたときに、「地元には面白い若い人がいたな」と思い返すと、その際の選択肢になるのではないかとという着想を得たことにより、地元の人に対する動画配信をさらに徹底しようと考えた。そこには「Uターン」という選択肢が魅力的ではないのに、「Uターン」がなせるとは思わず、地域の中で楽しんでいる様子を発信すること、つまり具体的な「生活」をイメージできるかどうか大切だという思いがあり、それがこの地域の「魅力」に結びつくようになったからである。総じて、観光PR動画のような背伸びしたのではなく、自分たちの、また小代という地域の「等身大」を示し、その中で最大限にできることを工夫して伝えられるような活動を行っていきたい。

Nagase

Yuya

長瀬 優也

なぜ小代で活動するのか？小代の魅力とは

脈々と受け継がれる「人との繋がりがり」に魅力を感じたことが一番大きい。また、大学時代に、出身地の「小代」「香美町」とSNSで調べても、車載動画くらいしか出てこなかった。このままだと、外に出た人が、いざ帰ろうと思っても、その契機すら失うことになってしまう。今、実際に小代に住んでいる若者たちが、どんな暮らしをし、どんな活動をしているのかを具体的に発信することで、また帰ろうかなという選択肢の一つとして活用してもらいたいと考えた。(西村太一)

中学校の時にバレー部だった僕は選抜選手になった。神戸で大会があった時に、小代の人達が声を掛け合って応援に来てくれるようになった。なんとその数バスが二台分！50人ぐらいの人が応援に来てくれた。応援席の一角は僕の応援で埋まっていて、みんな大きな声で応援してくれた。そんなことをしてくれるのはこの地域だけだと思う。恩返しをする為には「小代に帰らなできんなあ」と思った。(長瀬優也)

活動紹介

元バスケットボール選手のコービー・ブライアントをご存知だろうか。彼はロサンゼルス・レイカーズで活躍した選手だ。彼のシグネチャーモデルのバスケットシューズがあるほど人気の選手だった。ところで、彼の名前の由来を知っているだろうか。彼は英語で「Kobe」と表され、ローマ字読みで神戸とも読める。これは偶然ではなく、彼の父ジョーのお気に入りだった神戸牛のステーキが命名のきっかけとなった。そんなアメリカ人をも虜にした神戸牛。実は但馬牛が元になっている。そんな但馬牛を育てているのが小林一樹さんだ。

小林さんは27歳で独立し、現在30頭の但馬牛を飼育している。一頭一頭に愛着を持ち、優しく接しながら、牛とは運命共同体であるという思いで牛飼いをしている。他の牛飼いと違う個性のある牛を作るよう、与えるエサなども工夫している。買い手側に良かったと思われるような牛作りを目指し日々精進している。



なぜ小代で活動をするのか?小代の魅力とは?

学生時代から小代に戻って来ようと思っていたが、一度外へ出て新しいことを吸収したいと思い、神戸で就職した。その後、小代へ戻った。牛は暑さに弱く、寒さに強い。小代の環境は牛を飼うにはとても適している。この場所で牛を飼い、自分の名前で自分の牛を売りたいと思った。そこで小代に戻ってきて5年目に自分の牛舎を建て、牛を育てている。小代は狭い。でも、その狭いのが良い。それは、一生離れる事ができない深い関係が築けるからだ。神戸で生活している時も地元の友達とはよく遊んでいた。今でも気軽に会い、良い意味で都合良く会える仲だ。こんな友達は田舎でしか作れない関係だ。小代を離れて気づいた事がある。それは「やっぱり小代が好き」という事だ。

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか?

今まで経験してきて得た知識、技術でより良い牛を作っていきたい。そして、50頭くらいに牛の飼育数を増やしていきたい。自分もおじいさんになって、牛をうまくコントロールできなくなるまでは、牛飼いでいたいと思う。将来は誰かに、牛飼いを継いで欲しいと思う。でも、大変な職業なので、無理に勧めようとは思わない。牛に興味を持ってくれる人が同じ仕事をしたいと思ってくれるように、さらに勉強して、努力していきたいと思う。小代は近所の人皆が顔見知りで歩いているだけで親戚のように話しかけてくれる。また、都会には無い自由に遊び回れる自然がある。そんな温かい人たちが伸び伸びとできる豊かな自然に囲まれ、その良さを感じて子どもたちに育てて欲しい。

小林畜産経営、牛を愛し、牛に愛される男

Kobayashi

Kazuki

小林 一樹





株式会社MEリゾート但馬、CEO

持続可能な中山間地域を創造する

Ichinomoto

Tomoki

一ノ本 智毅



活動紹介

但馬にはスキー場、ゴルフ場、宿泊施設がたくさんある。おじろスキー場、湯村カンツリークラブ、神鍋ブルーリッジホテル。これら全ての施設を運営するのは株式会社MEリゾート但馬のCEO、一ノ本智毅さん。MEリゾート但馬では、合計10か所以上のリゾート施設を手掛けている。

星空をひとりじめ

星の草原キャンプ場

なぜ小代で活動するのか？ 小代の魅力とは？

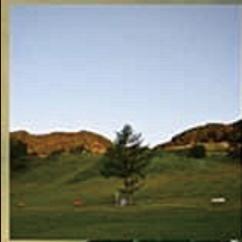
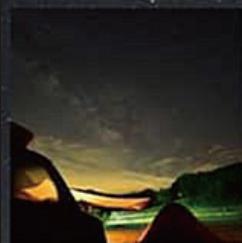
おじろスキー場は地域の基幹産業の一つであり、これがなくなってしまうと、小代の旅館や飲食店などが危機に晒されてしまう。何とか守り続けていきたいという思いで経営再建を始めた。

おじろスキー場の面白さは、地域との一体感にあると感じている。観光協会だけでなく、地域の人たちが、おじろスキー場の存在の大切さをよく理解していて、これを守るために全力でサポートをしてくれる。

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

小代には自然、食事など人を惹きつける豊富な魅力が存在しているが、これをもっとうまく発信していかなければならないと感じている。

また、現在は但馬の各市町がそれぞれに魅力を発信してしまっている。そうではなく、各市町が連携を深め、それぞれの良い部分を考えながら但馬全体として魅力を発信する取り組みの必要性を感じている。但馬全域で事業を展開している身として、連携強化の呼びかけに尽力したい。



Photos by Y. Fukumoto

活動紹介

「秋岡の子どもたちに楽しんでもらいたい」「地元を盛り上げたい」そんな熱い想いで地域のイベントを企画している新風会。その一員を今井寿樹さんがつとめている。

例えば、毎年5月4日に実施している溪谷祭りでは「魚釣り、魚つかみ」で多くの子供たちを楽しませており、広場をつかったイルミネーションは見た人の心を明るくしている。今日も秋岡には子どもたちの笑顔の花が咲いている。

なぜ小代で活動するのか？ 小代の魅力とは？

小代の良いところはズバリ「近所の人や地域との付き合いが強いこと」。小代を離れたときには近所付き合いが全くなく寂しさを感じた。小代では学校から帰ってきたときにはいつも近所からの「おかえり」の声があった。

また地区で運動会をしようとなったときに、全員で盛り上げようとする雰囲気生まれ、地区全体が熱狂できるのが魅力だと思う。なにかをするときに一致団結できたり、人心沸騰できるのは、人付き合いが強いからだと思いませんか？小代は良いところですよ。

Imai
今井
Toshiki
寿樹
新風会



活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

大学進学を機に香美町を離れたとき、そこにあって当たり前感じていたものの魅力を痛感し、それが私のUターンのきっかけの一つとなった。大切なのは昔からしているイベントを「受け継いでいく」ことではないか。地域の先人の努力によって受け継がれてきたものを、次は自分がその役割を担うと決意し、活動してきた。その担ってきた役割を次の世代へ繋ぎ、続けていってもらい、秋岡を50年後や100年後でも人が暮らしている場所にしたい。近い将来小代に人がいなくなる日が来ると言われている。今している活動が子どもたちが帰ってくるきっかけになり、その子どもたちがこの活動を受け継いでくれる。秋岡をいつまでも地域みんなが笑って過ごせる場所にしていきたい。



クリエイティブ・オフィス
ピエロ

Inoue

井上

Naoki

直樹



活動紹介

「人みな使命あり」と入った村岡高校のポロシャツ、小代小学校の野球のユニフォーム、オジロちゃんねるのTシャツデザイン、地区のベースボールキャップの刺繍やユニフォーム、その他、小代地区の住民が求めるデザインに応え続ける会社がある。

社名は、『クリエイティブ・オフィス・ピエロ』だ。井上直樹さんが代表を務めている。依頼する人の期待に応えるキャッチーなデザインが魅力だ。



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

小代に貢献したいと思い、父の会社を受け継いだ。今では地元の中で自分が作ったものを身につけているのを見ると刺激が貰える！豊かな自然の中で綺麗な空気、美味しい食べ物で心もからだも健康でいられる。冬は学校から帰ってスキーに行く、夏は山や川へ遊びに行く、そんな中で育つ人はなかなかいない！

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

私は、「若者の感性には、素晴らしいものが秘められている」と感じている。後継ぎを考えるようになった今、ひとまわり若い人たちに仕事を手伝ってもらいたいと思っている。

会社の今後の展望としては、モットーである「お客様の思いを大切に」を常に意識して活動し、自営業の特権ともいえる、お客様一人ひとりと向き合った、ニーズに応えるスタイルを確立していきたいと思っている。数あるプリント会社の中から私に依頼してくださる人がいることに感謝し、大切な1枚に思いを込め、届けていけるよう邁進していく。

小代は人が優しく、あったかい場所だから住みやすい。都会の人に小代で開催されるイベントに参加してもらい、実際に体感してもらいたい。





the most beautiful
villages in Japan

小代
兵庫 香美町

Inao Takashi

稲尾 孝

小代ガイドクラブ
会長



活動紹介

山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワーク（GGN）に加盟認定され、香美町を訪れる人が増えた。そこで、『小代ガイドクラブ』を開設し小代の魅力を多くの人に発信しているのは、稲尾孝さんをはじめとした小代が大好きな職員たちだ。

生まれも育ちも小代の稲尾さんだからこそのガイドツアー。吉滝や牛舎、棚田だけでなく小代で見られない小代の風景などたくさん魅力を発信している。時には、お客さんの希望の場所へ行くなどお客さんのことを第一に考えて活動に取り組んでいる。

なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

生まれも育ちも小代で、子どもの頃はよく外で虫取りや川遊びをしていた。高校卒業後は一度神戸の学校に進学したが、その時に、神戸みたいな都会もいけどやはり小代の自然が良いと改めて思った。小代の自然は、ただ豊かなだけではない。この地域の住人が大切に守ってきたからこそその美しさがある。現在のガイド活動はその美しさをしっかり伝えたいという思いがベースになっている。一人でも多くの人に小代の自然の魅力を知ってもらい、興味を持ってもらい、好きになってほしいという思いで活動している。

また、小代には都会にはない小代独特のゆったりゆったりとした癒されるような空気感があるし、地域の行事に積極的に参加する人が多く、人と人との繋がりを大切にしているところが魅力的だ。

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

ガイドツアーがきっかけで小代に来る人が増えてほしいと思う。田舎は人の結びつきが強いところが一つの良いところだが、一度訪れただけではその結びつきを感じてもらうのは難しい。だから、何回も通ってもらい小代に住む人々と交流してもらって「小代」という地域の魅力を肌で感じ、深く知ってもらいたい。

仮に小代が多くの人に注目を浴びて人口が増えた時に、住民の生活を優先しすぎて自然が壊れることだけは必ず防ぎたいと考えている。人口が少なすぎても多すぎてもいけないので昔くらいの人口である、3000人ほどに戻すことを理想としている。

Yoshida 吉田

小代のスポーツチーム

Toru 徹

びゅあびゅあ主将

活動紹介

小代のスポーツチームといえば、ピンク色が目立つ「びゅあびゅあ」だ。バレーボールを中心にゴルフや野球などの様々な活動をしていて、特にバレーボールでは美方郡大会で優勝している。めちゃくちゃ強い！！そんなバレー部の主将は吉田徹さんだ。楽しむことを目標として自分たちの楽しんでいる姿を見せ若者に帰ってきてもらえればいいなという思いがある。この姿勢が若者を魅了している。

なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

ここなら皆と楽しめると思ったから。ここにしかない人がいて、ここにしかない楽しさがある。びゅあびゅあは楽しむということを目的にしているから、小代じゃなきゃだめでそれに理由は必要ない。ズバリ！小代の魅力は「人」だ。初めて一緒に運動する人が来ても、何ら変わらない会話ができると思う。それがなぜ可能か？それはどんな人が相手でも優しく接することができる、小代の人の良さがあるからだ。メンバーと頻りに飲み会に行っておもしろい人の「繋がりが」と月並みな言い方かもしれない。けれど、自分の村の子どもや若者が何かしようとしているのを見て、どこの誰と関係なく、一丸となって楽しめるような雰囲気の小代にはある。



活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

びゅあびゅあとしては今も今後も特に目標は変わらない。僕たちは「それぞれが楽しいことをやる」ということだけなのです。そしてその活動を小中学生が見て「小代って楽しいやん」「田舎にもこんないいところがあったんだ」と少しでも思ってくれたらいいな。小代の魅力として風景がきれいとかもあるけど、「人の温かさ」や「地元のおじちゃんおばあちゃんが若い世代に地域の伝統を伝えている」というところがあげられる。僕たちは今の若い世代の人が小代に帰ってきてくれることを願っている。僕たちの活動を通して小代に若い世代の人が帰ってきて、びゅあびゅあみたいな新しいチームを作ったり、僕たちのチームに入ってきてくれたら最高だ。「友達の友達は友達」。僕たちは「楽しむことを忘れず」、今後の小代を盛り上げていくつもりだ。



Henmi 邊見 裕作 Yusaku 小代が誇るスッポン王子



活動紹介

みなさんは『オジレンジャー』を知っているだろうか。オジレンジャーは幼稚園、小、中学校に CD を配ったり夏祭りを盛り上げたり香美町に活気をあたえるヒーローだ。今日もオジレンジャーは香美町のどこかで活躍している。

そのオジレンジャーのひとり、料理旅館『大平山荘』を営む邊見裕作さんはスッポンやチョウザメなど地元でとれる食べ物を活かすため、地元の食材を自分が1番おいしいと思う料理にして提供している。

また自ら「スッポン王子」と名乗り、地元の食材を PR している。



なぜ小代で活動をするのか?小代の魅力とは?

高校を卒業した後、京都で3年ほど修行をして小代に帰ってきた時、改めて小代の魅力に気がついた。ここでは、スッポンや但馬牛のようなおいしい食べ物を提供できたり、休みの日には溪流釣りをしたりと様々な魅力がある。小代の魅力といえば、まずは「四季」「食べ物」だ。「四季」では例えば、春秋は過ごしやすいし、夏は海、冬はスキーなどの魅力があるし、「食べ物」もスッポンやチョウザメ、但馬牛などがあり、食材の宝庫だと思う。だが、1番の魅力は「人」だと思う。小代には、おもしろいや小代を良くしようと思ってきている人が多い。例えば、小林良斉（かずひと）さんはうへ山の棚田で小代の景観保全をしている。まず、小代を良くしようとする人がいないと小代は良くならないと思うし、こういう人たちがたくさんいると他の人にもその思いが伝わっていくと思う。こういった小代の「人々の姿勢」が小代のいいところだと思うし、そんな地元が好きだから、小代で活動を続けている。



活動の今後の展望、 小代をどうしていきたいか?

当初は、自分たちの活動で夏祭りを盛り上げることが目標だったが、今は自分たちの活動や経営している旅館を通して「また小代にきたい」としてもらえるように地域の魅力を発信していく。そして最終的には「小代に住

みたい」としてもらい、地元を離れた子どもたちには「また帰ってきたい」としてもらえるようにしたい。

また、オジレンジャー、そして旅館経営者として住民に小代の良さやさらなる魅力を発見してもらえるように活動し、小代を明るく活気あふれる地域にすることが自分の役目であり願いだ。



Matsuda

Akihiro

松田 晃宏

飲食店と民宿の経営を両立

活動紹介

祖母から継いだ「松田屋」とおしゃれな飲食店「SHAKUNAGE」を経営し両立させる松田晃宏さん。特産物「但馬牛」の肉々しさ、味の濃さに衝撃を受け、「牛すじコロッケ」や「ハンバーグ」など但馬牛を使った料理を多く生み出している。そして、その美味しさを伝えるため、また「但馬牛」をもっと多くの人に知ってもらうためインターネットを使いどのような人が興味を持っているのかを調べるなど“売り方の工夫”にも力を入れている。



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

祖母から民宿を受け継いだ後、小代という場所（環境）の魅力に気付いた。小代の魅力は都会とは違い、隣のおばちゃんがつ作った野菜を使用するなど、場所の分からない所のものを使用しておらず、商品に説明を入れやすくストーリーを作りやすい！また、小代は、どこでも挑戦ができ、人との繋がりがある場所だと思う。例えば、飲食店で新しい料理を作る際に周りの但馬牛を育てている人達が「自分の肉使ってみて」と気軽に声を掛けてくれるなど、いつも協力してくれる体制がある。

小代の新名物
但馬玄牛すじ
コロッケ



活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

現在は、上述したようにインターネット（データ）などを使ってどんな人が見たのか、興味を持ったのかを調べて売り込んでいる。ネットで販売していた「牛すじコロッケ」は 20 分で 2,000 個と爆発的に売れた。但馬牛をもっと多くの人に食べて知ってもらえるよう『レトルトカレー』も開発中。

今後は、小代の持つ「のびのびとした挑戦のできる地域」をさらに発展させ、あきらかに無理なチャレンジだとしても「やりたい！」と言えるような雰囲気のある地域にしていきたいと考えている。



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

約7年前に消防活動を行っていた時、お米を作っていた近所のおじいちゃんの「年を取ってもう、お米作りは無理」という一言で「じゃあ自分たちがやろう！」と決心し、始めた。活動をする中で小代の人のあたたかさや、誰かが何かを行う時に否定せず、一緒になって応援してくれることに魅力を感じた。そんなふうに、普通は言葉にも行動にもできないことが、小代ではできる。



Kobayashi

Taira

Rie

小林 平・理恵



受け継がれる棚田の伝統

活動紹介

先祖の代からはじまり、地元の仲間ですり作り続けてきた美しい景観を誇るうへ山の棚田。この棚田を守っていくために「俺たちの武勇田」は結成された。これはただのチームじゃない。小代の魅力が詰まった特別な存在だ。景観保全だけが役割じゃない。お米作りを通して地元の人々の仲を深め、上下関係なく円滑な人間関係を築くことができるすごいパワーがある。



活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

まずは、この景観を絶やさずに未来に受け継いでいくことを大切にしていきたい。

棚田でお米作りを始めて約7年経ったが、棚田の数を減らしてしまったことは一度もない。もし一枚でも田んぼを減らしてしまったら、急斜面でしか見ることのできない美しい景色を破壊することになる。この美しい景色を見たい、写真に収めたいという人が沢山いるだろう。だけどこの美しい景色の存在自体を知らない人たちも沢山いると思う。その人たちがこの景色を見た時に何を言うのか分からないが、心の中に少しでも残るのならそれで十分嬉しい。美しい景色をより多くの人に見てもらおうことが僕の願いだ。

Kuwahara

Makoto

桑原 真琴



但馬の豊かな植生をご紹介します



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

小代に初めて来たのは先輩に誘われた棚田の草取りだった。そこから定期的に草取りに来たり、遊びに来たりしているうちに、小代の人の優しさに魅了され、小代に住もうと思った。しかし、その時点では小代にずっと住むという決断はできなかったため、3年という期間が丁度良い地域おこし協力隊に応募した。

活動を通して感じた小代の魅力は、一緒にお酒を飲んだり、助けてもらったりして感じた地域の優しさ。若者を受け入れてくれる心の広さだ。また、若い人が地域を活性化しようと努力するところも魅力だと感じる。

若い人たちが自分の住む地域の魅力について考え、積極的に発信しようとする姿に感動した。

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

植物園で映画を見るイベントを自分で企画、開催した。このイベントは「地域の人に来てほしい」という思いを込めて行ったものだ。すると、50人ほどのお客さんに来ていただき、感想をもらったり、言葉をかけてもらったりしてとても嬉しかった。お客さんが楽しんでいる様子を見て、「地元の良さを地元の人にもっと知ってほしい」と考えた。

香美町には海も山もあり、食べ物も美味しく、人の優しさなど魅力がたくさんある。こうした魅力を自分で企画するイベントで発信していきたい。



活動紹介

地域おこし協力隊として、但馬高原植物園で活動されている桑原真琴さん。

但馬高原植物園では、SNS でおすすめスポットの大カツラを紹介したり、「植物に興味がなく、植物園で何をしたらいいのかわからない。」などの来園者からの声を受けて、植物にあまり馴染みのない人に向けた新しい楽しみ方を提案するパンフレットを作成したりした。



なぜ小代で活動をするのか？ 小代の魅力とは？

最初は岡山や京都の山にしようと思っていたが、不動産の人に勧められ斜面が少なくキャンプ場に適していると思ったのでこの土地を選んだ。元々このあたりの地域には八千北のスキー場などで少しなじみがあった。

いざ作ろうと考えてみると地元の人たちがキャンプ場を作ることに反対したらどうしようかなど少し思っていた。実際は野菜をくれたり協力してくれたり、とてもいい人が多くて詐欺ではないのかと少し疑ったほどだった。

自分は都会で生まれ育った人が多い場所はあまり好きではない。小代は都会と違って自然が豊かでとても落ち着くことができる、日頃のストレスをリフレッシュできる場所だ。過ごしやすく虫が少ない秋は本当に気持ちがいい。

将来は小代の棚田を見下ろせる露天風呂を作ることも検討中。



Ueyama

Chisako

Kyohei

上山 知沙子・恭平

理想のキャンプ場を求めて

活動紹介

なんとキャンプが好きすぎて小代の山を買った人がいる。その広さ東京ドーム約9個分！大阪在住の上山知沙子、恭平夫婦だ。

二人は平日に大阪の会社で働き、週末は小代へ来てキャンプ場を開拓している。二人で話し合い計画を立て、キャンプ場を自分たちの理想像に近づけている。ブッシュクラフトなどを楽しめる夢のキャンプ場の完成に向けて日々夫婦で楽しみながら活動に取り組んでいる。



活動の今後の展望、 小代をどうしていきたいか？

スタッフを雇用することによって小代に雇用を生み出し、小代の人々の働く仕事の選択肢を増やせられたらと考えている。

また、おじろじろキャンプ場を通して、遠くから来てもらう人たちに道の駅などで小代の野菜や但馬牛を買ってもらう形で小代の産業に貢献することで、小代の経済に良い刺激を与えて小代の産業を活性化させて小代を盛り上げたい。



Tanino Hiroshi
谷野 博
木の駅プロジェクト



活動紹介

地域おこし協力隊員の谷野博さんは、北但西部森林組合で「木の駅プロジェクト」という活動に従事している。

「木の駅プロジェクト」では、間伐材をチップにし、それをバイオマス発電に利用する。それだけでなく、間伐で出た木を買い取り、地域通貨と交換する活動をし、地域に貢献している。山の整備をするだけでなく、地域通貨を発行し、地域内で経済を回すことにより、地域の商店の活性化に貢献しているのだ。



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

大阪からここへやってきたのは田舎暮らしがしたいと思っていたから。そして、木の仕事ができる場所を探していたからだ。どうしたらスムーズに移住できるのかと考えたときに「地域おこし協力隊」の制度を思い出した。思いついたらすぐ実行。小代に住んでみて魅力に感じたのは、人と人の距離が近いことだ。大阪と比べるとよく分かる。大阪だと、近所の人の名前も分からないし、挨拶もほとんどしない。でも、小代は、近所の人の名前も分かるし、挨拶もする。例えば、地域で開催される祭りでも、それを感じ取ることができる。幅広い年齢層が真剣に、より良いものを作るために集まり、そして協力し合う。そのような活動の中で良好な関係が作られていくことが小代の魅力だと思う。

活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

今後、「木の駅プロジェクト」で年配の方も若い世代の人にも実際に山に入り、山の整備や掃除に参加してもらうことで、山への興味を深めるとともに、活動を通して人とのつながりを作っていきたいと考えている。

Matsuda

Takuya

松田 拓也

アウトドアの楽しさを子どもたちに



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

以前は姫路に住んでいて、雪に触れることはほとんどなかったけど、小代に来てみて雪の多さにびっくり。同じ兵庫県なのに、シーズンごとに違う景色が見られることに感動した。

子どもたちと課外活動するのに、小代はとても恵まれている。山や沢に登ったり、ごはんをつくったり。最初は、米を洗うのに洗剤を入れてしまったり、水を入れずごはんを炊いていたりするような子もいたけど、自然の中で知恵を得て、「できた！」「やった！」という感動を味わえる。

7年活動してきた中で見つけた小代の魅力は、「人の良さ」。小代では、近所の人のことや地域のことを知っているのはもちろん、困ったことを助け合ったり、野菜をもらうことも。人とのつながりが濃いつて、とってもいいことだと思う。

活動紹介

とちのき村を拠点にアウトドア活動を通して、小代の魅力を発信している松田拓也さん。

自分たちで考えて遊ぶ、考えて動くことの大切さを伝えるとともに協働の活動を通して、仲が深まるようなプログラムを企画、実施している。小代の自然をふんだんに活用したアウトドアプログラムは子どもたちに大人気だ。

montbell



活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

今後は、「災害キャンプ」をしてみようと思う。その活動によって地域の子供たちが自分たちで考え、自分で動き、災害が起きても自ら対応できるようになる。また、とちのき村には、都会の人がたくさん来る。だから都会の人に小代を知ってもらおうキッカケになると思う。それをすることで小代を好きになる人がでて将来小代に来るかもしれない。それによって、小代を活性化できると思う。

Inoue Mai 井上 舞

写真がつなが、人と人



活動紹介

井上舞さんは、Uturu（写真撮影同好会）のメンバーの一人である。Uturuの主な活動は、成人式の写真を撮ることだ。そして、成人式で撮った写真を厳選し、写真集を出している。他にも、香住の三番叟の撮影をしたり、最近では「おさんぼカメラ部」という活動で、小代を散歩をしながら町の人の何気ない生活風景を撮って、それらを小代の方々に渡したりした。

井上さんは、写真が好きで、自分のやりたいことをして喜んでもらえることにやりがいを感じているそうだ。



なぜ小代で活動をするのか？小代の魅力とは？

元々写真を撮ることが好きだから、大学では写真部に入った。そしてUturuの人に誘っていただいて、自分の好きなことをして地域の方々に喜んでほしいと思った。

小代の魅力は、オジロちゃんねるや田尻茜さんなど、若い人たちが小代を変えようといういろんなことに挑戦しているところ。それは、若い人たちが積極的に個々で小代をPRしていることが影響していると思うから、そんな若い人たちの力で地域を活性化させようと取り組んでいることが小代の魅力の一つだ。もちろん、昔からある生活、自然、田舎の人の濃すぎるぐらいのつながりが残っていることも小代の素敵なおところだと思う。また、今、小代が活動する場として選ばれて少し変わっていかようとしていることが楽しみだ。



活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

Uturuの方針として、飾らない香美町の写真を撮ること、写真を撮って地域の人に貢献していくことを重要視して活動していきたい。Uturuの活動を通して「楽しそうだな。」と思ってもらえてこれをきっかけに写真に興味を持ったり、「ここに住もう。」とか思ってもらって、小代でも楽しい生活が出来ていることを同年代の人に見てもらいたい。



小代の食 -OJIRO'S FOOD-

和牛のふるさと・小代では愛情たっぷり育てられた但馬牛（たじまうし）だけでなく、近くから湧き出る26℃の温泉水を利用して育てられている小代のすっぽんや、とても珍しく希少なチョウザメやキャビアなどを楽しめます。ぜひ一度味わってみてください。



『99・9%』この数字をご存じでしょうか？日本の和牛の99・9%は、ここ小代区の貫田地区で生まれた『田尻号』の子孫ということが証明されています。小代はまさに、“和牛の原点”なのです。神戸ビーフの素牛である但馬牛。お肉の直営店やレストラン、各お宿でいただけます！

小代の山近くから湧き出ている26℃の温泉水。これを利用してすっぽん職人によって愛情込めて育てられているのが、小代のすっぽんです。約50年ほど前に地域活性化のための「特産品」として養殖が始まったすっぽん。小代の豊かな自然の中で育ったすっぽんは臭みがまったくなく、ぷりっぷりでおいしい！



あまり知られていませんが、兵庫県内で唯一チョウザメの養殖場があるのが、ここ小代。チョウザメといえばキャビアが有名ですが、キャビアだけでなく、実は身の部分も淡泊であっさりとしており、とっても贅沢な味がしますよ！

小代の滝 -OJIRO'S WATERFALL-

山陰海岸ジオパークのエリアになっている小代。小代に来たら、滝めぐりをするのもいいかも。マイナスイオンたっぷり。自然いっぱいな滝で癒されてください。

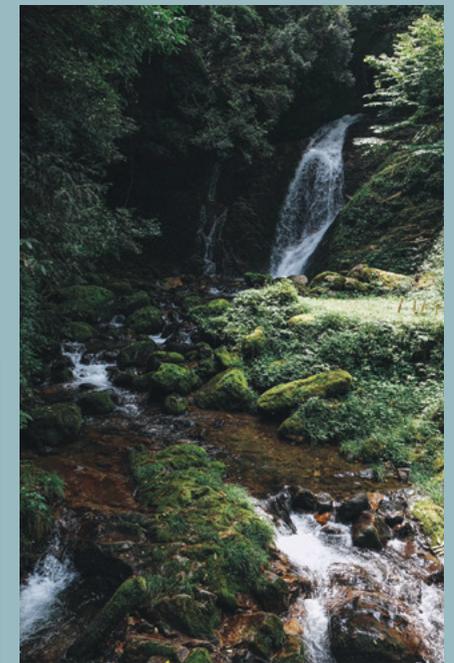


#吉滝 photo by: @ryobird_ski (Instagram)

兵庫県指定文化財記念物名勝に指定されている『吉滝』。滝の裏側へまわれる別名「裏見の滝」として知られる珍しい滝です。滝の左右に銀滝、金滝という小さな滝が流れており、飲み比べても楽しい！滝の裏側には吉滝神社があり、とても神秘的です。良縁のパワースポットと呼ばれているんですよ！

久須部溪谷（くすべけいこく）は氷ノ山那岐山 国定公園に属しています。小代に通る矢田川の源流のひとつで、『要の滝』や『三段滝』『鈴音の滝』など多くの滝があるエリアです。金山の跡地も残っていて、昔の小代の生業などを感じることができるところでもあります。

夏に訪れると川のせせらぎや滝の迫力で涼しくて、癒されますよ。アマゴやヤマメなどの川魚も生息しています。ラッキーだったら見れるかも！？



#要の滝 Photo by: @knsvisuals (Instagram)

みかた残酷マラソン

-MIKATA ZANKOKU MARATHON-

年に一度、小代区の一大会『みかた残酷マラソン全国大会』。
小代区内を周回するコースで高低差が残酷・・・な24kmのハードコース。
そのかわりに沿道には区民の温かい声援。人生で一度は挑戦してみたい！



24kmのハーフマラソンと舐めてはいけません。このみかた残酷マラソンは高低差がとんでもなくあるのです。登り切ったと思ったら次は下り坂。そしたらまた上り坂。とてもハードなコース。そんな残酷コースなこの大会はリピーター率がとても高い。そのわけは沿道の区民の温かい応援にあるようです。各地区ごとに設置してある給水所には住民の方が水を入れたりフルーツを用意したり。温かい応援があるから頑張れる。そんな温かい大会。だからファンが多いんです。

村岡高校生も全力サポートをしているこの大会。ランナーの中には村高生ファンもいるんですよ。



おわりに

「財産、それは人」

兵庫県立村岡高等学校 校長 大垣 喜代和

村岡高校地域創造系生徒全員が取り組む集落魅力発信プロジェクト「かみあう vol.2」が完成しました。当初の計画では、小代区での集落調査の予定でしたが、コロナ禍により「おじろの若者 魅力発信」と変更して、小代区で活躍する若者に焦点を当て、オンライン等も活用して村高生が調査研究し、ガイドブックにまとめました。高校生が強く魅力を感じた「憧れの先輩たち」人こそが財産だと感じる一冊となっています。



編集後記

兵庫県立村岡高等学校 村高発地域元気化プロジェクト 集落調査班

近年では「地方創生」や「田舎暮らし」などの言葉をよく耳にするように小規模集落が少しずつ注目される世の中になりました。だからこそ、移住や定住を考えている人も多いのではないのでしょうか。『かみあう Vol.2』では、そういった1・Uターン者の増加を目的として、小代で活躍している若者を紹介することで小代という地域を知ってもらい、「行きたい!」「住んでみたい!」と思ってもらえるような冊子を目指して作成していきました。



「小代が好きだ。」インタビューをした若者全員から聞き、感じた言葉です。人に焦点を当てているにも関わらず、地域が話題が常にありました。そんな地域思いの若者の皆さんの活動から学んだことは多く貴重な経験となりました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受け大変な年となりました。しかし、そのような中で作成されたこの冊子には、地域活性化という目的に加え、若者の地域への熱い想いがギュッと詰まった「人の温かさ」をさらに感じられるものとなりました。

この冊子を作成するにあたって小代地区の方々をはじめ、出版に携わっていただいた多くの方々に厚くお礼申し上げますとともに、この冊子が多くの方々の手に届き、小代区がさらに活気あふれる町となることを願っています。「人情あふれる小代の魅力に多くの方が虜になりますように・・・」

鳥取大学地域学部地域創造コース 教授 筒井 一伸

何もかも異例づくめでスタートした2020年度。当初は『むらの風景』の小代地区エディションの作成を予定していましたが、それは延期をして、2013年度に地域創造類型1期生が作成した「ステキな“人”と出会うための香美町ガイドブック-かみ★あう-」を参考に、その小代地区エディションの作成に取り組むことになりました。学校だけではなく地域の様々な活動が制約されている村高生と、近年活動が活発な小代地区を楽しむカッコイイ大人とが「かみあう」経験してほしい、そんな希望からです。



コロナ禍での地域づくりの道標(みちしるべ)の一つとして私は「多様性の中の連帯」を挙げています。「新しい生活様式」の名の下でいままでの常識が通じなくなる一方、新たな常識が生まれており、多様性の増幅がコロナ禍の社会の特徴といわれます。また「連帯」という言葉は農山村コミュニティの特徴として使われてきましたが、多様性に富んだ主体をもやい直して連帯を目指すことがコロナ禍の地域づくりでも必要です。このガイドブックを手にした人々の中で新たな連帯が生れるきっかけになりましたら、私としましてもこの上ない喜びです。